

新技術・機械の導入により規模拡大を続ける (日笠工業株式会社)

＜法人の概要＞

所在地：香川県さぬき市

設 立：平成 19 年 11 月

資本金：1,000 万円 売上高：6,700 万円（平成 29 年）
（うち農業：6,700 万円、うち農業関連事業：0 万円）

役 員：2 名（うち農作業従事 1 名）

従業員数：3 名、うち農業従事者 3 名

経営面積：75ha 営農作物：水稻、小麦、WCS、飼料用トウモロコシ

農業開始時期：平成 24 年 4 月



日笠社長（WCSほ場にて）



四国でも数少ない汎用型微細断飼料収穫機

＜農業参入に至った経緯・動機＞

実家が 1.2ha の経営農地を保有する兼業農家であり、日笠社長自身も民間企業に勤めながら農業に携わっていた。

民間会社を退職後、建設会社を設立する際に事業として農業を行うことも想定し、定款の目的に農業を含めた。

＜農業参入することを決めてから営農開始まで＞

農地を借り入れるに当たり、県の助言を得ながら農業生産法人の要件をクリアし、平成 24 年の農地借入を契機に農業を主体とした経営に移行した。

経営改善計画の認定取得、人・農地プランの中心経営体への位置付けや J A の組合員となるなど、地域や行政との繋がりを持つとともに様々な制度や事業が活用できる地盤作りに尽力した。

<営農開始から現在まで>

平成 24 年に町外の農地を含め 7 ha の農地を借り入れ、水稻・小麦の栽培や作業受託から開始し、平成 26 年からは農地中間管理機構も活用しながら、現在では 75ha まで規模拡大した。平成 29 年からは収益性向上のため、生産コストが低く、今後需要の拡大が見込める W C S と飼料用トウモロコシを新たに導入した。規模拡大や新規品目の導入により必要となる農業用機械や施設は、自己資金のほか、国や県の補助事業を活用して整備した。

借受農地の増加により、ほ場情報の管理や作業の進捗状況の確認、作業指示に多くの時間と労力を要していたが、農機具メーカーの I C T 技術を活用した農業経営支援システム（作付・施肥計画、ほ場管理、作業記録、入出水管理などの機能があり、親パソコンからタブレットを経由して作業指示を行うことが可能）を平成 30 年に導入することにより、885 筆の農地をリアルタイムで管理することが可能となり、作業効率が大幅に向上した。

<今後の農業経営の展開方向>

土地利用型作物を継続し、農地中間管理機構から借受依頼のあった農地は基本的に全て受け入れ、規模拡大→作業効率向上→雇用拡大のサイクルを続けていく。

作業効率の向上のため新技術や機械を積極的に導入し、オペレーターの技術や経験、知識に左右されることなく、機械の能力による品質の安定化を図る。一方で、将来的には従業員を地区別担当制に移行し、責任を持たせることで勤労意欲を向上させ、作業をシステム化することにより次世代へ継承していくことが当社の最終目標である。

<今後農業に参入しようとしている法人へのアドバイス>

農業は品目の選択を誤らなければ作れば作るだけ売れるのが強み。現状に満足せず、高収益・高作業効率性を追求すべき。

経営改善計画の認定や人・農地プランの中心経営体への位置付け、農地中間管理機構の活用など補助事業の活用に必要な要件を備え、行政等の支援制度を活用してソフト・ハード両面の投資軽減を図る事が有効である。



ほ場情報管理やタブレットによる作業指示を行う農業経営支援システム